

nuovoサブスク会員 被災地支援活動へ！

nuovoサブスク会員コースの詳細はこちら↓



nuovo では、非常時の現場で真に役立つ講習とトレーニングの場を提供しております。サブスク会員の中には「①重機講習会で資格取得→②サブスクトレーニングでスキルアップ→③災害現場で支援活動」の3ステップを経て、実際に災害現場に入り、重機による支援活動を行った方々も。その経験者の皆様に感想をお聞きました。

熱海土石流被災地支援

現場で活躍笑顔P独自の学び初めての重機作業もスムーズに



金子真一朗さん (23)
りんご農家

被災地支援は初めてで、前夜からかなり緊張していましたが、実際に現場に入っ
て改めて、資格を取得してからのサブスクの重要性を感じました。サブスクトレーニングでの、笑顔P独自の検定で学んだことがしっかりと身に付き、現場で活かすことができました。

周りに10人以上のボランティアの方々がいる中で、重機オペは、神経を使うとても大変な作業でしたが、本当に良い経験ができました！ダンプへの積み込みも初めてでしたが、周りの家屋等に当てないよう積み込みも行うことができました。また併せて、実際の災害現場はニオイがかなりキツク、泥も非常に重く、手作業による長期支援の難しさや無力感を痛感しました。

サブスク会員を代表しての初仕事となりましたが、これからもできることを全力でがんばりたいと思います。

辰野町被災地支援

積み重ねた練習の成果が現場で！達成感と自信、喜びでいっぱい



加福登さん (50)
会社員

笑顔Pの様々な活動を見て、男女の区別なく同じ作業ができることを知り、体力的に劣る障害者の私でも健康者と同じ作業ができ
ると思い、nuovoで重機資格を取得しました。

今回は辰野町の土砂災害現場にサブスク先発

隊として2名で現場作業へ。まず驚いたのが堆積土砂の多さ。深さは3~4mもあり、撤去するのにどれほどの時間がかかるのか見当もつきませんでした。私は主にダンプで土砂を指定場所へ運ぶ作業を担いながら、別現場からの要請で住民の方がまとめた土砂の搬出も行いました。ダンプ&ユンボオペとして作業、まとめた土砂をキレイにすくうのは難しく、際の土砂が残ってしまいました。天気も下り時間も限られるので、オペ交代。ちょっと悔しい思いをした現場でした。

別の日には、ダンプオペをしながら夕方にユンボオペ。体積した土砂を畑の地が出る程度にすくう作業で、サブスクでよく練習していたスウィープを活用しました。土ギリギリや壁の際をキレイにすくえた時の気持ちよさは格別！練習を積み重ねてきて良かったと実感できました。また、作業最終日の現場で終わりが無いと思われた土砂搬出作業のゴールに立ち会えたことは、やりきった達成感と「やればできる」という大きな自信になりました。

住民や園主様からの感謝の言葉は何事にも代えがたいご褒美で、本当にこの現場で作業ができて嬉しく思いました。

「皆で笑顔に」のポリシーを実感！長野を離れても心は笑顔P



村上明子さん (44)

馬好きの友人の「馬場の整備に役立つかもね」という言葉をきっかけに、興味

本位で重機講習を受けました。

今夏、災害復旧の現場に入れていただいたのは不思議なご縁としか言いようがありません。私のような中年のペースに合わせた参加を保証するために、スタッフが担う仕事はどれほどでしょう。サブスクでトレーニングは積んでいるものの、辰野町では初めて体験する被災現場に不安

や戸惑いも。けれども私の動きが鈍ると本部やクルーがフォローしてくれ、支援先への「寄り添い・励まし」がサブスク会員の私にも向けられていることを実感。「皆で笑顔になろう」という笑顔Pの貫徹したポリシーを感じました。

今秋、長野を離れるのが残念でなりません。ぜひ日本全国に笑顔Pが広まってほしいです！どこにいても心は笑顔P。皆さん、また一緒にしましょう！

小布施町堤外災害支援

重機に乗れて支援活動もできるnuovoサブスクは得することばかり



稲垣力さん (42)
緑地管理業

仕事の幅を広げたくて、6月にnuovo重機講習を受講。サブスクトレーニング参

加が4回、8月に解体講習を受けたばかり、というキャリアです。

サブスクトレーニングの一環で活動に参加しましたが、もちろん操作に自信はないので、「チェーンソー作業が主で、重機は少し乗らせてもらえれば」くらいの気持ちでした。結果的には、ガッツリ重機に乗れてしまいました！最初は流木のカットを担当していたものの「乗ってみれば？」と声をかけていただき、抜根2つと整地、さらに解体用つかみ機による流木整理もやらせてもらいました。

まだまだ初心者域ではあるものの、3カ月前はゼロスタートだったことを思い返せば、スムーズに操作できたのは嬉しいことです。そして何より、重機に乗ること自体が楽しいですね！実のところ、僕はボランティア精神は乏しくて「仕事のために重機の練習がしたい」だけです。そんな人間でも「重機に乗れて良いことできちゃう」のなら、得しかないですね。この体制を構築して、いつもサポートしてくれるスタッフの皆さんに感謝です！

<支援金のおねがい>

日本笑顔プロジェクトの活動は、自主財源に加え、皆様からの支援金のもとで成り立っております。災害による緊急支援や復旧作業などに万全の体制で臨めますよう、ご支援のほどを、なにとぞよろしくお願いいたします。日本笑顔プロジェクト 代表 林映寿

八十二銀行（ハチジュウニギンコウ）小布施（オブセ）支店（252）口座番号 普通：211038 口座名 日本笑顔プロジェクト（ニホンエガオプロジェクト）※口座番号に7桁の指定がある場合は、先頭部分に「0」を入力して、[0211038]としてください。

発行 2021年9月30日

発行者 一般財団法人日本笑顔プロジェクト
代表 林映寿
〒381-0211 長野県上高井郡小布施町
雁田 676 浄光寺内
電話：026-247-3924
HP https://egaonowa.net/

制作 燕游舎



県内外で被災地支援に尽力 サブスク会員も現場で活躍！



①



②



③



④



⑤



⑥

①②熱海市・伊豆山地区。家屋内の泥の排出や土砂の撤去を実施。③④小布施町・千曲川堤外の果樹畑。冠水による倒木や漂着物の撤去を9月中も実施してまいりました。⑤⑥辰野町の土砂災害現場。土砂の撤去や家屋解体などを実施。いずれの現場でも、nuovoサブスク会員の皆様が大活躍なさいました。

7月 熱海市・伊豆山土砂災害

7月3日、断続的に降り続く雨の影響で、静岡県熱海市の伊豆山地区にて大規模な土石流が発生。死者26名、行方不明者1名（2021年9月現在）、損壊家屋131棟と、深刻な被害をもたらしました。

7月6日、日本笑顔プロジェクト（以下、笑顔P）から、2名が現地調査に入りました。各地で活動する災害支援団体の皆様と地上からの調査を行った後、笑顔Pと災害連携を結ぶ国際災害対策支援機構様と匠航空様がただちにヘリコプターを運行していただき、上空から被害状況を調査。民間組織によるその迅速な対応は、平時からの万端な備えを物語っていました。

被害者捜索・人命救助の難航や二次災害の危険により立ち入り禁止区域が多く、コロナ



ヘリコプターにて熱海市の被災地を空から調査。迅速・確実な状況把握が、素早い救援活動につながります。

禍の影響もあって難航するボランティア作業。その中で笑顔Pでは、関係団体の要請を受けて8月2日から被災地に入り、スコップや重機を用いた家屋内の泥の排出作業や、土砂により壁がなくなってしまう建物の横張り作業、生活道路の確保作業など、多岐にわたる支援活動を行いました。

また笑顔Pが運営する「ライフアミューズメントパーク nuovo」（以下、nuovo）のサブスク会員が初めて重機オペレーターとして現場に入り、練習の成果を発揮しました。▶P.4 参照

8月 小布施町・千曲川が増水

降り続く大雨のため、千曲川が増水。小布施町でも8月14日、高齢者等避難警報が発令されました。大雨から一夜明け、無事に警報もすべて解除されたことから、笑顔Pは安全をしっかりと確保し、地元農家さん立ち会いのもとで千曲川堤外の果樹畑へ被害調査に入りました。

小布施町の名産品である栗の畑が多くある同地。通路が水没していたり、木が折れていたりと、大量の流木・漂流物が流れ着いていたり、様々な被害が見受けられました。2019年の台風19号災害から、3年連続での水没被害となりました。

その後行政から依頼があり、重機7台を投入して流木・漂流物の撤去を開始。サブスク会員の皆様とともに、支援活動を続けております。

8月 大雨により 県内各地で土砂災害発生

千曲川が増水と同時期に、長野県内17市町村30カ所で土砂災害が発生。辰野町でも、土砂災害により大量の土砂が農地・建物に入りました。笑顔Pでは、長野県社会福祉協議会様からの要請により、小布施町での支援活動と並行して土砂の撤去・家屋の解体作業を行いました。小型重機から大型重機まで投入し、土砂の排出量は2tダンプ300杯以上となりました。▶P.3 コラム参照



（左）土砂が厚く堆積した辰野町の被災現場。



（右）土砂の撤去作業により、現場が復旧。

日本笑顔プロジェクト 活動の記録

(2021年6月—8月)

6月

- 2 日 国会議員・熊谷裕人様が小此木八郎内閣府特命担当大臣に、笑顔 P 及び nuovo の紹介 (参議院災害対策特別委員会の一般質問) ①
- 2 日 「ライフアミューズメントパーク nuovo」が商標登録 ②
- 3 日 富山テレビのニュース「ライブ BBT」で放送 (笑顔 P)
- 5 日 須坂新聞掲載 (AED×四輪バギー講習会) ③
- 8 日 バイオトイレ設置 (nuovo パーク) ④
- 10 日 第 3 回重機講習会 (解体用) 実施、8 名受講⑤
- 13 日 第 22 回重機講習会実施、25 名受講 (累計 442 名)
- 14～17 日 長野市戸隠・サブスク会員現場スキルアップ講習会実施⑥
- 17～18 日 第 23 回重機講習会実施、7 名受講 (累計 449 名)
- 20 日 第 4 回 ATV 四輪バギー講習会実施
- 21 日 KDDI エンジニアリング株式会社様向け ATV 四輪バギーライセンス講習会実施 (協力: 一般社団法人オフロードビークル協会、以下 OVO)
- 22 日 国土交通省北陸地方整備局様から感謝状 (連携 :OVO)
- 23 日 須坂創生高校・企業見学 (nuovo)
- 28 日 nuovo EX(体験型 nuovo) が 2 力所同時オープン (長野・戸狩、千葉・成田) ▶P.3 コラム参照



①



④



⑦



⑩



⑪



⑤



⑧



⑫



⑥



⑨



⑬



⑭

7月

- 2 日 「ONE NAGANO.NET 長野地域版」掲載 (笑顔 P 立ち上げの経緯)
- 2 日 チバテレ教育番組「カワウソंचीたん☆が行くホントの日本」取材・出演: 仮面女子、スリジエ (nuovo EX 千葉・成田)
- 5 日 信濃毎日新聞掲載 (熱海土石流被災地支援) ⑦
- 6 日 熱海土石流災害・現地調査 (連携: 国際災害対策支援機構様、匠航空様) ▶P.1 参照
- 8 日 KDDI エンジニアリング株式会社様向け ATV 四輪バギーライセンス講習会実施 (協力 :OVO)
- 8 日 日本テレビ「news every.」生中継 (nuovo EX 千葉・成田) ⑧
- 8・9・11 日 第 1 回チェーンソー講習会実施、10 名受講 ⑨
- 9 日 熱海土石流災害・救助犬捜索隊に簡易トイレ「BENKING」を届ける (連携: 株式会社 C-SOS) ⑩
- 12 日 長野放送・NBS ふるさとライブ放送 (nuovo)
- 13 日 「SUUMO ジャーナル」掲載 (nuovo)
- 15 日 第 5 回 ATV 四輪バギーライセンス講習会実施、8 名受講⑪
- 17～18 日 第25回重機講習会実施、23名受講(累計 472 名) ⑫
- 21～23 日 第 2 回チェーンソー講習会実施、10名受講⑬
- 22 日 信越放送「SBCニュースワイド」で放送 (チェーンソー講習会)
- 24～25 日 第26回重機講習会実施、32名受講(累計504名) ⑭
- 26 日 調布「FM GSM チャンネル」で出演 (春原副代表)

- 28 日 ケーブルテレビ ネット飯山で放送 (nuovo EX 長野・戸狩)
- 29 日 有志消防士向け・チェーンソー講習会実施 (協力 :DRT JAPAN 様、DEF TOKYO 様) ⑮

8月

- 1 日 第 4 回重機講習会 (解体用) 開催、19 名受講
- 2～4 日 熱海市土石流被災地支援 ▶P.1 参照
- 4 日 テレビ信州「news every.」で放送 (熱海土石流被災地支援)
- 4 日 NEXCO 東日本・新潟支社様向けバギースキルアップ講習会開催 (協力 :OVO)
- 7～8 日 第 27 回重機講習会実施、11 名受講 (累計 515 名)
- 9 日 長野市豊野町・避難所体験会で出店⑯
- 16 日 小布施町・千曲川堤外の調査
- 20～26 日 辰野町被災地支援 ▶P.1・右記コラム参照
- 22 日 第6回 ATV 四輪バギーライセンス講習会、8名受講
- 29 日 救助犬×四輪バギー検討訓練⑰
- 29～30 日 第 28 回重機講習会実施、7 名受講 (累計 522 名)
- 30 日 小布施河川敷の漂流物の撤去作業 ▶P.1 参照



⑮



⑯



⑰

「nuovo EX」(体験版 nuovo) が 2力所同時オープン !!

《nuovo EX 長野・戸狩》

主幹: 「あじさい寺」高源院
長野県飯山市豊田6356-1
(戸狩温泉スキー場横)

「お寺が建立され600年余り、地域の皆様に支えていただいたお寺が、今度はその皆様のお役に立ちたいとの想いで開設に至りました。」(高源院 江澤遠大住職)



《nuovo EX 千葉・成田》

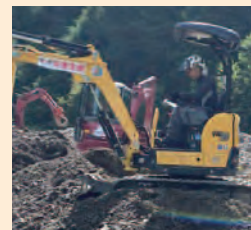
主幹: e-Nature Inc.
千葉県富里市根木名 696-15

「プライベートキャンプ基地として長年運営してきましたが、この度、用地を拡大し、バギーコースを作り、森にキャンプ地を作るプロジェクトがスタートしました。災害現場などの実践にすぐに使えるフィールドで、重機、チェーンソー、ATVやUTVのスキルを十分に活用頂けます。お待ちしております。」(e-Nature Inc. 板谷俊明さん)



重機オペに楽しく参加 今度は私が恩返しを

たつぎこういち
箕輪町 立木幸一さん



笑顔 P の復旧作業に重機オペで参加された立木さん。

水害に遭った辰野町の漆畑の所有者、立木幸一さんから、笑顔Pの支援活動の体験談をお寄せいただきました。

漆畑が川に変貌。どうすれば……

今回被災した畑では、国産漆を保護する目的で漆の植栽をしていました。自宅とは離れた畑の被災をニュースで知り、畑に駆けつけて、啞然。まるで川の中に漆の木が立っている、そんな景色です。「土が流れ込んだだけなら何とかなるかも」と思いながら帰宅しました。



翌日、現地を訪れると、土砂の量は想像を超えていました。途方に暮れ、行政の支援を期待するしかありませんでした。

その後、河川の氾濫を食い止めるべく、行政が手配した業者が大型の重機を投入し河川の土砂撤去を開始。数時間で河川の土砂は畑の脇に堤防のごとく積まれました。河川からの越水は収まりましたが、畑の土砂はそのままでした。

「なんだこの団体は、すごいな！」

数日後、「災害救援支援」のステッカーを貼った重機を積んだダンプが数台現場に現れ、お話を聞くと土砂の撤去をしてくれるとのこと。行政がこの団体をお願いしたのかな？ 自己負担はあるのだろうか？ そんな自分の思いをよそに、作業はどんどん進んでいきました。



若い方・年配の方など10人以上の人が楽しそうに作業をしている姿を見て、「なんだこの団体は、すごいな！」。これが笑顔Pの第一印象です。

「今、自分にできるのは、この方々に感謝の気持ちを伝えることだけ」と思い、連日差し入れを届けながらも、「他にできることはないのか」「住宅が被災したのであれば一緒に片付け作業をするが、畑の土砂撤去では自分がスコップと一輪車で作業をしても、邪魔なだけで役に立たない」と自問自答。その末に、ひとつのひらめきが。「そうだ！ 重機オペをさせてもらおう。」

復旧作業をともに楽しんで

翌日、笑顔Pの林映寿代表に「自分も重機を操縦できるので」とお願いし、活動に参加。ダンプオペが足りない時はダンプで土砂運搬をしました。笑顔Pメンバーと一緒に作業は楽しかったです。

作業の合間や休憩時間に、林代表から笑顔Pの生い立ちや「nuovo」での重機講習など活動の様子をお聞きして、改めて素晴らしい団体だと感銘を受けました。この御恩は一生忘れません。そして、今度は恩返しをさせて頂きたいと思っています。